



企画展

石井春
アズレージョと空間
Ishii Haru
Azulejo and Space

1 | 刷毛目が残る石井春のアズレージョ

開催情報

| | |
|-------|---|
| 名称 | 石井春 アズレージョと空間 |
| 会期 | 2022年10月1日（土）～12月4日（日） |
| 会場 | 竹中大工道具館 1F ホール |
| 開館時間 | 9：30～16：30（入館は16：00まで） |
| 休館日 | 月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始（12/29～1/3） |
| 入館料 | 一般700円、大高生・65歳以上の方500円、中学生以下無料 ※常設展観覧料を含む |
| 主催 | 竹中大工道具館 |
| 後援 | 在日ポルトガル大使館、日本ポルトガル協会、大阪日本ポルトガル協会、 長崎日本ポルトガル協会 |
| 協力 | ポルトガル国立アズレージョ美術館、INAX ライブミュージアム、織部製陶、 FORTUNA |
| 公式サイト | https://www.dougukan.jp/special_exhibition/ishii-haru |

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会期やイベント情報が変更となる
可能性があります。最新の情報は公式サイトをご確認ください。

開催趣旨

白地にブルーの彩色が鮮やかなポルトガルの装飾タイル「アズレージョ」。その美しさに魅せられてポルトガルに渡り、伝統技法を学んだ造形作家の石井春は、日本人ならではの感性を加えて、アズレージョを用いたオブジェをつくり続けています。古めかしい装飾タイルがいかにして空間を彩る現代アートになるのでしょうか。最新作を通してその秘密にせまります。

プロフィール

石井春（いしい・はる）

造形作家。1980年アート活動開始。1995年からポルトガルにてアズレージョ制作を始める。2010年ポルトガル大統領よりメリット勲章を授与。主なコミッションワークに島根県立しまね海洋館アクアス（1999）、安田女子大学（2007）、京都水族館（2012）、オリックス劇場（2013）など。ポルトガルの国立アズレージョ美術館や国立水の美術館に作品が収蔵されている。

展示の見どころ

造形作家・石井春の最新作 9 点を本邦初公開

アズレージョを用いた造形作家として知られる石井春の最新作を 9 点展示します。2019年にポルトガル国立水の美術館（Museu da Agua）にて展示された大型の作品《航海の贈物》をはじめとしてコロナ禍の中、日本で構想を練った大型の最新作《一畳台目茶室》《しづく》《水面の景色》（いずれも 2022 年制作）等を展示します。陽光あふれる竹中大工道具館の 1F ホールにて光り輝くタイル作品をご鑑賞いただければと思います。会場ではあわせて石井春さんのインタビュー映像を上映し、作品に込められた意図や制作工程を深く理解できるようになっています。

アズレージョの基礎知識を解説

日本では馴染みがないポルトガルの伝統タイル・アズレージョについての基礎知識をタイル実物と写真スライドショーにて詳しく解説します。石井春の作品は現代的な作風ですが、その背景にはポルトガルのタイルを愛する国民性と伝統的なものづくりの精神があることが理解できるようにしました。

石井春とともにアズレージョタイルをつくる
ワークショップを開催

展覧会開催を記念して、作家本人の指導のもと、アズレージョ風にタイルの絵付けを行うワークショップを開催します。絵付けが終わった作品は後日、焼き上げてお送りします（日本国内の素材と窯でつくります）。

《航海の贈物》

1543年、ポルトガル人を最初に日本へと導いたのは船であり、海であり、嵐であった。その航海の偶然を機に、商人や宣教師たちがつぎつぎと日本を訪れ、数十年にわたりユーラシア大陸の西端と東端の国の間に稀に見る交流がおこなわれた。その様子は有名な南蛮屏風に描かれているように様々な文物の交換を通して育まれた。そこで生まれた豊かな多様性を色とりどりのアズレージョで表現した。



《航海の贈物》
アズレージョ
2019年
(部分)

2

《一畳台目茶室》と《しづく》

アズレージョで茶室をつくる。突拍子もないことだけれども、そんなことを思いついた。一畳台目は、千利休が考え出した最も狭い茶室形式。そのまわりに蹲踞(つくばい)や打ち水など清浄さを表す「水の庭」を巡らせた。しとしとと降る雨の静寂の中、穏やかな気持で過ごせる「禅」の雰囲気が醸し出せばよいと思った。



《一畳台目茶室》
アズレージョ
2022年
(イメージ画像)

3

関連イベント

※イベントの日時・内容は変更になることがあります。
最新の情報は「石井春 アズレージョと空間」展公式ウェブサイトにてご確認ください。

ワークショップ 石井春さんをつくるアズレージョタイル

ポルトガルの装飾タイル「アズレージョ」の技法を用いてオブジェ作品をつくり続けるアーティスト石井春さんの指導のもと、素地に絵付けをして、オリジナルデザインのタイルをつくります。

※タイルと絵具は日本製を使用します。



| | |
|------|---|
| 日時 | 2022年10月15日(土)、11月13日(日) ①10:00～12:00、②13:30～15:30 |
| 場所 | 竹中大工道具館地下2階木工室 |
| 講師 | 石井春(造形作家) |
| 定員 | 各回とも小学4年生以上10名(事前申込制、応募者多数の場合は抽選) ※小学生は保護者(1名)要同伴、保護者とペアでの参加となります。 |
| 参加費 | 3,000円(材料費・タイル焼成費込み、別途作品送料・入館料が必要) |
| 持ち物 | 筆記用具(鉛筆、油性ペン) ※動きやすく汚れてもよい服装(エプロン等)でお越しください |
| 申込締切 | 9月23日(金・祝)必着 |
| お渡し | 制作後2週間程度で焼成して送付(宅配便着払い) |

関連イベント申し込み方法

ウェブサイトまたは往復はがき下記事項をご記入の上お申し込みください。

ウェブサイト

公式サイト(https://www.dougukan.jp/special_exhibition/ishii-haru)内よりお申し込みください。

はがき

往信用裏面 ①イベント名(ご希望日時も)②参加者氏名(フリガナ)

③郵便番号・住所④電話番号⑤年齢⑥利き手

返信用表面 宛先に申込者の郵便番号、住所、氏名をご記入ください。

裏面は未記入のこと。

〔申込み先〕〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1 竹中大工道具館イベント係

※ハガキ1通につき1名様までお申し込みいただけます。

※参加可否の詳細は締切日以降10日程度でご連絡いたします。

※ご記入いただいた情報は厳重に管理し、イベント以外の目的には使用いたしません。

当館のご案内



日本で唯一の大工道具の博物館「竹中大工道具館」は、大工道具を収集・保存し、研究や展示を通じて後世に伝えていくことを目的に設立されました。

常設展は7つのコーナーに分かれており、唐招提寺金堂組物の実物大模型、五感に響くハンズオン展示などを通して大工道具の魅力をお伝えします。

また博物館そのものが「匠の技の数々を肌で感じてもらえる場」となっており、建物の各所には大工や左官、瓦師などによる伝統の職人技をちりばめました。

シンボリックで自己主張の強い建築ではなく、人と自然をやわらかくつなぐ存在としての「和」の建築を楽しんでいただければ幸いです。

アクセス



山陽新幹線「新神戸駅」中央改札口より徒歩約3分
 市営地下鉄「新神戸駅」北出口2より徒歩約3分
 シティ・ループ「12 新神戸駅前(2F)」下車徒歩約3分
 神戸市バス2系統・18系統「熊内6丁目」下車徒歩約2分

広報用画像

- ・画像データ1~4 (JPEG) をご提供いたします。メールにてお申込みください。画像データをメールにて送信いたします。
- ・画像をご使用の際は必ずご案内のクレジットをご表記いただき、申請の目的以外にご使用なさないでください。
- ・掲載記事・番組内容について情報確認のためにゲラ刷り、原稿の段階で下記事務局までFAX送信ください。
- ・お手数ですが、掲載紙・誌、または録画媒体等を下記広報事務局あてに1部ご寄贈願います。

お問い合わせ

「石井春 アズレージョと空間」展広報事務局 (竹中大工道具館内)

〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1

TEL：078-242-0216 FAX：078-241-4713

E-mail：ishii-haru@dougukan.jp

- ・読者プレゼントとして本展図録5部または当館招待券ペア (2枚) 5組を提供することができます。
- ・その他、撮影などの取材をご希望される場合は別途事務局までご連絡ください。